地域定着を促進する支援モデルの開発

佐々木正和*,1)大場義貴1)
1)聖隷クリストファー大学

＜研究目的＞　精神科病院の長期入院者（１年以上入院者）に対しての地域移行、地域定着の 21 年以上の実績のある A 県の宿泊型自立訓練施設 C（以下、施設 C）を対象に地域定着のモデル抽出を行う。また、2017 年度実施した A 県の宿泊型訓練施設 B（以下、施設 B)を対象とした調査と比較しながら、地域定着に至るまでの支援方法(exposure)の中の特にピアサポートによる支援とクライシス対応とが、地域定着（outcome）にどのように影響するか明確にする。これらにより精神障がい者自身の支援の力と、スタッフによるクライシス対応スキルを活かした支援モデルの開発をめざす。

＜研究方法＞　2019 年 1 月～3 月、精神科病院を退院し A 県の施設 C に入所後卒所し地域生活をしている 8 名に対して半構造化面接によるインタビューを行う。修正版グラウンデッドセオリーに基づき、MAXQDA ソフトを用いインタビューデータを元に分析ワークシート化した。そして、オープンコーディングで概念生成し図 1 のストーリーラインを作成した。

＜研究結果＞　調査対象者は、精神科病院を長期入院（1 年以上）した後、退院し宿泊型生活訓練施設 C で生活訓練を受けた後、施設 C の法人の運営するグループホームや自宅で地域生活をしている 8 名（男性 6 名、女性 2 名）をインタビューの対象とした。平均年齢は 56 歳 9 か月（SD±11.54）で最年少 39 歳、最年長 77 歳であった。8 名全員が就労継続 B 型事業所に通所し、そのうち 7 名はグループホームで生活していた。それぞれのグループホームでは仲間同士で支えあうピアサポートが行われていた。現在まで、グループホーム入居者（25 名）のうち再入院者は 0 名であった。

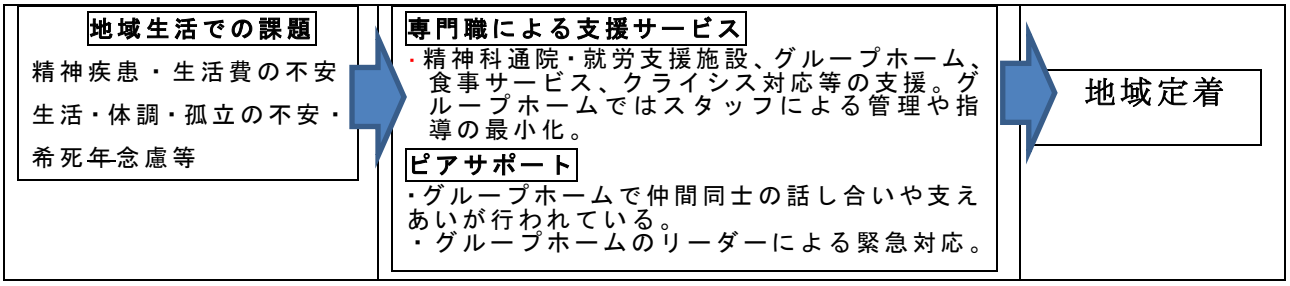

図１　インタビューのストーリーライン

＜考察＞　C 施設では、1997 年から 2018 年までの 21 年間で近隣圏域の精神科病院に長期入院していた精神障がい者の地域移行・地域定着支援を行ってきた。グループホームでは、精神障がい者当事者のリーダーを定め、グループホームのメンバーに精神症状の再燃等があった場合は、リーダーがスタッフにクライシス対応を求めたり、メンバーの見守りをしたりするなどのピアサポートが行われていた。その結果、メンバーによるピアサポートとスタッフのクライシス対応とが連動した形でのグループホームでの支援が行われていた。2017 年度の施設 B と同様にピアサポートの力とクライシス対応によって、精神科病院の長期入院者の地域定着に効果がある支援がなされていた。

倫理審査		■承認番号（　18052　）□該当しない
利益相反		■なし　　□あり（　　）
発表状況	種　別	□著書　■論文　□学会発表　□紀要　□その他（　）
	年月日	2019　年　10 月　1 日（□確定　■予定）

※この時点で発表が予定の場合や発表の予定がたっていない場合は、発表した時点で別紙様式による報告が必要となります。